

2013年8月31日・わかやま新報では

枯葉剤被害者の声聞く

詩人武西さん、ベトナムで交流

本紙隔週土曜付でコラム「詩でつづるふるさとの記憶」を連載中の岩出市宮の詩人、武西良和さん（65）がこのほど、詩の活動を通じベトナム社会主義共和国を訪れ、現地民と交流した。

日本とベトナムの国交樹立40周年記念と枯葉剤被害者支援の出版企画「ベトナム独立・自由・鎮魂詩集175篇」（8月10日コールサック社より出版）に詩を提供している縁で訪問団に加わった。日本からは11人が参加。同国も文学活動が活発なことから、武西さんは現地で自身の詩の活動を紹介し、ハノイ貿易大学に自身の本を寄贈した。

枯葉剤被害者宅の訪問では、障害がありながらも力強く生きる姿にふれた。その他、南ベトナム解放民族戦線の女戦士として政府軍と戦い、パリで開かれた和平交渉に当たったグエン・ティ・ビン元国家副主席とも面会した。

武西さんは「枯葉剤被害者から話を聞くことができ、生きるということへの力強さを痛感した。今後、詩の活動へも生かしたい」と話している。

と紹介されています。